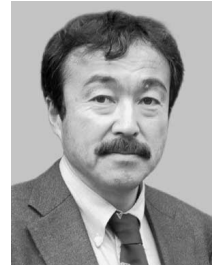


ユビキタス社会のためのアンテナ・伝搬技術論文特集の発行にあたって



ユビキタス社会のためのアンテナ・伝搬技術論文特集編集委員会

委員長 安藤 真

最近の情報化社会におけるブロードバンド化・マルチメディア化、更には、パーソナルエリアネットワークなど、今後期待されているユビキタスネットワーク社会の実現に向けて、多様な無線通信及び無線を用いる各種応用システムの実現が必要とされ、研究開発が進められている。また、このようなユビキタス社会を実現していくためには、それを支える基礎として、高性能なアンテナを実現するための設計・電磁界解析技術、複雑な伝搬チャネルに対する理論解析やモデリング技術、更にそれらを検証するための実験・測定技術など、新しい技術が必要である。本特集号は、各種アンテナシステム、伝搬関連分野の設計、これらに関する解析及び測定を中心とした幅広い分野の最新技術の論文を集めている。

本特集では、まずユビキタスネットワーク社会で求められる、ブロードバンド化、パーソナル化などの観点から、広帯域アンテナやミリ波アンテナの設計、アレーによる位置推定更には、電波伝搬特性を利用した暗号技術について、第一線で活躍している方に2編の解説論文と2編の招待論文とを執筆頂き、最新技術とともに分野の動向の概要が把握できるように構成した。また募集に対しては32編の論文・レターが投稿され、12編（レター3編を含む）が掲載されることになった。掲載論文の内訳は、アンテナの設計（7編）、アンテナ伝搬におけるケーブルや人体の影響（2編）、EBG構造やRFIDにおける電波反射特性の制御（2編）、MIMOアルゴリズム（1編）となっている。

本特集号がアンテナ・伝搬をはじめとする無線関連の研究者・技術者の参考となり、ユビキタスネットワークの構築に役立つことを期待したい。平成19年度は、AP関連の和英の二つの特集号を同じ月に発行することとなった。多数の優れた論文を投稿頂いた方々の活発な研究活動に敬意を表するとともに、論文査読に御協力頂いた方々、企画及び編集に御尽力頂いた編集委員及び学会事務局の方々には、特段の活躍を頂き、深く謝意を表する。

なお、“アンテナ・伝播研究会”（AP研）では、平成18年4月1日の設立以来、前身の“アンテナ研究会”時代の会誌特集も含め、これまで10号の和文特集号を発行しており、本特集は11号目となる。2002年からはほぼ毎年特集が企画されているが、本特集への投稿数は和文論文誌へのAP関連論文の年間投稿数の約3分の1を占めるものであり、特集号の研究活性効果は大きい。なお、過去の和文特集号の9号分については、アンテナ・伝播研究専門委員会40周年記念事業の一環として発行されたDVDに収録されていることを申し添える。

あんどう まこと
安藤 真（正員） 昭49東工大・工・電子物理卒。昭54同大大学院博士課程了。同年電電公社横須賀電気通信研究所入所。昭57東工大・工・助手。昭59同大助教授を経て、現在東工大教授。電磁波の散乱・回折の解析、開口面アンテナ及び衛星放送受信アンテナの研究に従事。昭57年度学術奨励賞、第5回テレコムシステム技術賞、第8回井上賞、電気通信普及財団賞、本会論文賞・業績賞受賞。著書「電磁波問題の基礎解析法（分担）」、訳書「アンテナ入門」。IEEE Fellow, URSI Commission B Chair (2002-2005)。

ユビキタス社会のためのアンテナ・伝搬技術論文特集編集委員会

| | |
|-----|--|
| 委員長 | 安藤 真 |
| 幹事 | 長 敬三・高橋 応明 |
| 委員 | 石井 望・今井 哲朗・神谷 幸宏・菊間 信良 榊原 久二男・鷹取 泰司・宮下 裕章 |